

# 授業の玉手箱

## 思考ツール Graphic Organizer

中井 弘一

思考力の育成が求められているが、思考力の育成はどう指導すればいいのだろうか。Bloom's Taxonomy によると、①知識の獲得 (acquisition of knowledge)、②理解 (comprehension)、③応用 (application)、④分析 (analysis)、⑤統合 (synthesis)、⑥評価 (evaluation) と思考回路は分類されている。これに基づけば、思考の段階に応じた問いかけや考えるプロセスを助けるツールが必要である。その思考ツールとして、コンセプト・マップ、T チャート、クラゲ図などのグラフィック・オーガナイザーは、生徒の考えを整理させるのに有効であろう。

### 例

- ・ **コンセプト・マップ (概念マップ) :**  
筆者の授業でも毎回の課題とするのだが、一つの論説教材の内容や論点の流れの構造を図解させる。フローチャートや原因マップもこの分類になる。
- ・ **チェーン・オブ・イベント (順序づけ) :**  
教材内容の情報の順位付けで、論点を整理する。教材を読み進めながら出来事をまとめたり、以前に読んだ部分との関連を思い出したり、予測をしたりする。年表やプランニングなどもこの分類になる。
- ・ **T チャート・ベン図 (分類チャート) :**  
教材に書かれている内容を 2 つに分類しその相違点を発見、比較、対比させるのに有効である。フィッシュボーンなどもこの分類である。



参考として、黒川 (2012) は考えることを支援する 20 のシンキングツールをサイトで紹介している。 (<http://www.ks-lab.net/haruo/thinking-tool/short.pdf>)

## 書籍紹介

### 『はじめてのアクティブ・ラーニング！ 英語授業』

山本崇雄 (著)、128 ページ、学陽書房 (2015/12/11)、¥ 2,052

中等教育から高等教育まで、今、日本の教育界をアクティブ・ラーニングが席卷している。いうまでもなく、アクティブ・ラーニングは次の学習指導要領のキーワードの一つである。本書は、現職の中・高英語教員によって書かれたアクティブ・ラーニング導入本である。というよりも、著者らによる話題の「教えない英語授業」が実はアクティブ・ラーニングの実践にほかならないことを証明している書といってよい。

アクティブ・ラーニングは主体的な学修を実現する一つの手段である。周到な授業デザインやファシリテーターとしての役割等、教師の工夫と力量が求められる。同時に、アクティブ・ラーニングでは学生・生徒同士の学び合いが授業のダイナミクスの重要な要素となるため、質問したり、説明したり、議論したり、説得したり、まとめたりといった言語活動が欠かせない。

しかし、英語授業では従来、こういった言語活動の活性化を目指してきたのではないのか。これまでの英語授業の取組とアクティブ・ラーニングによる英語授業は何が異なるのか。アクティブ・ラーニングの英語授業とはどのようなもので、何を目的としているのか。本書は、英語教員が今立っているところからアクティブ・ラーニングを臨み、アクティブ・ラーニングをデザインしていくのに恰好の書である。ペアワーク、グループワーク、情報ギャップからサイトトランスレーションまで、英語授業で取り扱ってきた活動が立派なアクティブ・ラーニングに転換しようと本書は伝えている。生徒が活動を始めない場合、孤立する



生徒が出てきた場合、成績向上の問題、宿題・課題の問題、テストや評価の問題についての Q&A があるのもありがたい。

アクティブ・ラーニングの理論に迫るにはやや弱いが、英語教員にとってアクティブ・ラーニングを身近なところに引き寄せてくれる一冊である。

(東條 加寿子)

## 大阪女学院大学「教員免許状更新講習 1・2」平成 28 年度講習

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate>

各講習：中学校英語科教員・高等学校英語科教員 計 30 名

### ■講習 1 平成 28 年 8 月 8 日 (月) 9:10 ~ 16:40

「アクティブ・ラーニングとは何か、英語の授業での方略を考える」

- ・ 英語の授業とアクティブ・ラーニング：その目的を考える

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

- ・ 英語の授業でのアクティブ・ラーニングの方略と導入・活用の工夫

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

【第一部】記録・説明・批評・論述・討論などの言語活動を充実させることで思考力や判断力、表現力を育むことを目的としているアクティブ・ラーニングはこれまでの英語授業における取組みと何がどのように異なるのかを、実践例を挙げながら議論する。【第二部】アクティブ・ラーニングはなぜ効果があると考えられているのか、また、アクティブ・ラーニングという学習方法を英語の授業で活用すればよいのか、その方略を中学・高校の英語の教科書などを使った実習を通して参加者と考える。

### ■講習 2 平成 28 年 8 月 9 日 (火) 9:10 ~ 16:40

「いきいきとした英語指導の工夫」

- ・ 発音・音読指導

夫 明美 大阪女学院短期大学 准教授

- ・ 英語音声情報を反映した発話タスク

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

- ・ 授業を活性化する発問・小テスト

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

【発音・音読指導】授業テキストなどを用いた体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習を行い音読指導のヒントについて考える。【発話タスク】発音や強勢、イントネーションなどの英語音声のしくみを実際の発話に活かし反映させることを促すタスクについて考える。【発問・小テスト】英語の授業に思考を刺激する息吹を与える発問や小テストの在り方を、「気づき」「思考力」「波及効果」をキーワードに発問例や小テスト例などを通して考える。

## ■ 受講申し込み受付

平成 28 年 4 月 18 日 (月) より 7 月 22 日 (金) までに大阪女学院大学 教員養成センター「教員免許状更新講習」担当へお申し込みください。(申込方法) 教員養成センターメールアドレス (ttc@wilmina.ac.jp) 宛に、1) お名前 (漢字・ふりがな) 2) メールアドレス 3) ご連絡先電話番号 4) ご勤務先・所属等 5) 希望講習を明記してメールを送信ください。一週間以内に本学より申込受付確認メールとともに受講申請手続きについてご案内いたします。

○ 受講料 5,000 円 (所定の口座へ振り込み)



## 編集後記

生も一度きり、死も一度きり、一度きりの人生だから、一年草のように、独自の花を咲かせよう。

(坂村真民のこぼ)

教育に生きる覚悟は、毎年、自分の花を精一杯咲かせることだと思ふ。考えさせようと授業の工夫に奮闘努力する教師の姿を見て、学生や生徒は心動かれ、自分の花を咲かせようとする。新年度が始まる。

## 大阪女学院大学・大阪女学院短期大学 教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp